



現状と課題

令和3年度結果

県学調の平均正答率(%) 無回答率(%)

4年国語 45.7(県平均58.0) 16.2

4年算数 65.3(県平均69.9) 4.9

5年国語 44.9(県平均56.7) 17.1

5年算数 44.8(県平均61.9) 21.5

※ 全体として平均正答率が低く、無回答率が高い

現状と課題をもとにした仮説

- ・児童の実態に応じたわかりやすい授業展開などを創造することにより、できる喜びを味わうことができるであろう。
- ・自分の考えをもち、友達や先生に伝える活動を取り入れることにより、自信をもって問題に取り組む児童が増えるであろう。
- ・学んだことを日常生活で活用することのよさを実感することにより、楽しみながら学びに向かう児童が増えるであろう。

できる喜びを味わわせ、楽しみながら学びに向かう児童の育成

事業実施報告

通年	対象学年において、少人数指導実施
5月13日	埼玉県学力・学習状況調査実施
夏季休業中	職員研修 各種調査の分析
9月26日	4年 授業研究会
12月9日	5年 授業研究会
冬季休業中	成果の分析 効果の検証

仮説をもとにした取組内容

取組① 該当学年においての効果的な少人数指導・TTの計画・実施

○該当学年において、国語は1クラスを2グループに、算数は2クラスを4グループに分け、少人数にすることで、一人一人に指導が行き届くようにしていく。

取組② 学校全体での基礎基本の定着の取組、環境の整備

○効果的にICTを活用するとともに、少人数教室の掲示や各学年の学習プリントの準備、朝の国語タイムでの漢字マスター週間の取組を行い、児童の基礎基本の定着への支援を行う。

取組③ 研究授業を通じた教員の指導力の向上

○すべての学年・特別支援学級において、学年で同じ授業を授業研究会として行うことで、ベテランから若手への指導技術の伝承や、より児童の実態に合わせた指導の実現を目指す。

取組④ 家庭学習の定着に向けた取組

○市で配付されている家庭学習用ノートの取組を推奨し、1冊達成するごとに、校長室に提出し、校長から表彰してもらう機会を設定する。





現時点での成果

成果① 埼玉県学力学習調査結果の改善

- 無回答率が改善した。
- 平均正答率の県平均との差が減少した。
- 学力の伸びの平均で、昨年度の該当学年において一部を除き、県平均を上回った。
(R4 5年国語 伸び1、R4 6年国語 伸び4・算数3)
- 学力を伸ばした児童の割合で、昨年度の該当学年において一部を除き、県平均を上回った。
R4 5年国語63.6% (県55.0%)
R4 6年国語87.8% (県76.9%) 算数75.5%(県67.5%)

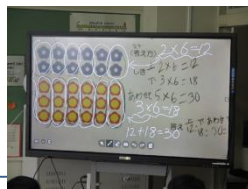
成果② 効果的な少人数指導・TTの実施

- 学年の実態に合わせ、グループ分けを工夫し、学期が進むにあたって、少人数指導のグループ分けの方法やTTの活用など、それぞれの形を確立した。



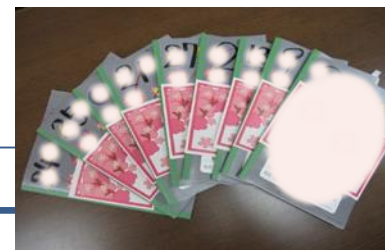
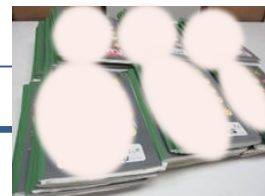
成果③ 環境の整備等、学校全体での取組

- 廊下や少人数教室の掲示を見る児童の増加
- 「算数コーナー」や各学年の学習プリントの準備、屋外の1a(アール)の表示
- ICTを授業の中で積極的な活用
- 電子黒板や児童用タブレットを数多く活用することができた。



成果④ 家庭学習の定着に向けた取組

- 各学級ごとに取り組んでいた家庭学習の取組を学校全体の取組に広めることができ、児童の達成感につながった。達成されたノートは1月20日現在で400冊を超えた。



課題及び次年度に向けて

- 該当学年の単元テストの結果などを見ても、国語、算数において、正答率が高まっている。学力が向上していると思われる。来年度以降も成果を発揮することができるよう継続的に取り組んでいきたい。
- 第6学年は、学力とともに、授業への取組においても課題が見られたことから、令和5年度以降は、新たな学校全体の体制づくりが課題である。
- 児童が学び合い、主体的に力を伸ばしていけるような授業や、家庭での学習にさらに取り組めるようにしていきたい。

